

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題A】学校保健体育をいかに良質なものにするか

📅 2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 📍 2206教室(教育研究棟 2街区 2階 2206)

[2a701-03] 学校保健体育研究部会 【課題A】 口頭発表④

座長:吉永 武史(早稲田大学)

9:00 ~ 9:20

[学校保健体育-A-10]

学校体育の起点の再考：身心一体科学 考え方と方法（哲,生）

理科と体育の教育の狭間で抜け落ちる「生きている自分」

*跡見 順子¹、藤田 恵理²、清水 美穂¹ (1. 帝京大学先端総合研究機構、2. 帝京大学医療技術学部)

9:20 ~ 9:40

[学校保健体育-A-11]

多様な学習者が共に学びあうための教材開発（哲）

ルールや条件の設定をとおして

*森田 啓¹、高橋 浩二²、中島 早苗⁵、戸枝 美咲⁶、佐藤 和⁴、小谷 恭子⁸、河緒 一彦⁷、畑 孝幸³ (1. 大阪体育大学、2. 長崎大学、3. 東海学園大学、4. 千葉工業大学、5. 共立女子短期大学、6. 日本女子大学、7. 関西学院大学、8. 帝塚山学院大学)

9:40 ~ 10:00

[学校保健体育-A-12]

SUSTAINABILITY IN SPORTS SCIENCE: RESEARCH GROWTH AND GLOBAL INFLUENCE（政）

A BIBLIOMETRIC STUDY

*PONUGUPATI PREMANAND¹ (1. VICE- PRESIDENT , NAPESS)

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題A】学校保健体育をいかに良質なものにするか

2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 2206教室(教育研究棟 2街区 2階 2206)

[2a701-03] 学校保健体育研究部会【課題A】口頭発表④

座長:吉永 武史(早稲田大学)

9:00 ~ 9:20

[学校保健体育-A-10] 学校体育の起点の再考：身心一体科学 考え方と方法（哲、生）

理科と体育の教育の狭間で抜け落ちる「生きている自分」

*跡見 順子¹、藤田 恵理²、清水 美穂¹ (1. 帝京大学先端総合研究機構、2. 帝京大学医療技術学部)

体育は、身体を通して自分の存在を知り、人間であることを理解し、一生考え試行錯誤しながら人間を生きる姿勢(態度)を育てる教育である。教育には、その時代の先端知を導入すべきである。跡見順子は、半世紀前に出会った「人間の生物学」を体育学の基盤に据えるべきだと考え研究し、昨年学術書「身心一体科学 考え方と方法」(東京大学出版会)を出版した。生命科学は、目覚ましく発展中であるが、「動く人間」や「教育可能性ある人間」には連携されていない。それは体育や身体運動科学を実践する研究者が行わないと誰も問題にしないだろう。生きている自分自身を、基本から思考の対象として位置づけるためには、「細胞生命科学」と脳科学の本質を取り入れ、教育課程を見直すべきである。文理を早く分けすぎた教育体制を是正すべきである。1. 体育とは「身体」を介しての教育：教育は、時代の最先端の科学を土台にすべき。2. 身心の教育可能性：「刺激に応じて変化する能力」は、生命の単位「細胞」にある。地球で創発した生命体である人間の能力は、他の動物と基本的には同じ原理で、ほぼ生得的に「活動依存性」に獲得する。しかし上述の本で紹介したが、人間のみが意識的に行えるように学習しないと身につかない身体技法（体幹・重心制御）があり、心身の一体化の基本スキルであり体育教育に導入すべき。3. 自分を対象化(俯瞰)する視点が必須である：人間は、自分のシステムを知るように育たない。古代ギリシャの「汝をしれ」が必須で、その学習を体育教育の軸にし、「いのちの原理」をコアにすべきである。4. 「いのちの原理」を創発させた条件としての重力と細胞の生存原理であるメカニカル応答5. 人間の特性(ことば・科学等の抽象的理解)との関係：刺激を受容し、直接応答する末梢器官（の細胞）とことば(記号)等により統合的に理解する脳神経系の細胞原理を理解する教育が必須である。

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題A】学校保健体育をいかに良質なものにするか

2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 2206教室(教育研究棟 2街区 2階 2206)

[2a701-03] 学校保健体育研究部会【課題A】口頭発表④

座長:吉永 武史(早稲田大学)

9:20 ~ 9:40

[学校保健体育-A-11] 多様な学習者が共に学びあうための教材開発（哲）

ルールや条件の設定をとおして

*森田 啓¹、高橋 浩二²、中島 早苗⁵、戸枝 美咲⁶、佐藤 和⁴、小谷 恭子⁸、河鱈 一彦⁷、畑 孝幸³ (1. 大阪体育大学、2. 長崎大学、3. 東海学園大学、4. 千葉工業大学、5. 共立女子短期大学、6. 日本女子大学、7. 関西学院大学、8. 帝塚山学院大学)

体育・保健体育において、子どもたちの技術、体力、モチベーションに大きな個人差があることが指摘される。しかし、子どもを取り巻く環境の変化を考慮すれば、この個人差を前提に実施する必要があるだろう。幼少年期に近所の公園、空き地で友達と遊ぶ機会・場所はかつてと比較すれば激減している。運動教室やスポーツクラブなどで身体を動かさざるを得ない。そうすると家庭の経済力によって身体活動経験・能力は影響を受ける。身体的発達には個人差が大きいのに加え、新自由主義によってその差は拡大している。身体に関して非常に大きい格差がある。その子どもたちが一斉に取り組むのが体育である。この非常に大きくなっている「身体的な違い」を前提に体育・スポーツを考える必要がある。

重要なことは、これらの個人差をマイナスと捉えるのではなく、この特徴を活かし、「教え合い、学び合い」を基本とし、受講生全員が当初の技術、体力、モチベーションから向上することをめざすことであろう。この「教え合い、学び合い」が生じる環境、条件の整備が重要と考える。たとえば、サッカーにおいては、運動部活動等の経験者とそれ以外の学生を均等にグループ分けし、最初は「2タッチ&グラウンダー」という条件でゲームを開始する。続けて触れるのが2回という制限は、経験者のドリブルを不可能にし、グラウンダーは長いパスを制限する。必然的にショートパスをつなぐスタイルになる。短い正確なパス、トラップ、スペースへの動きが必要になり、経験者はアドバイスし、それ以外の者はわからないこと、できないことを質問することでチームのレベルアップにつながる。個人やチームのレベルアップに応じて、条件を変更することで、より高度なパフォーマンスを発揮したい。

さらに、既存のスポーツを実践するだけでなく、新しいゲームを創出したり、ルール・条件を変更したりするなど、さまざまな工夫を凝らした実践を試みたい。

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題A】学校保健体育をいかに良質なものにするか

📅 2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 📍 2206教室(教育研究棟 2街区 2階 2206)

[2a701-03] 学校保健体育研究部会 【課題A】 口頭発表④

座長:吉永 武史(早稲田大学)

9:40 ~ 10:00

**[学校保健体育-A-12] SUSTAINABILITY IN SPORTS SCIENCE: RESEARCH GROWTH AND GLOBAL INFLUENCE (政)
A BIBLIOMETRIC STUDY**

*PONUGUPATI PREMANAND¹ (1. VICE- PRESIDENT , NAPRESS)

Abstract This study presents a comprehensive bibliometric analysis of sustainability research in sports science between 2015 and 2025, using data sourced from the Scopus database. A total of 67 documents, identified through the keywords “sustainable sports” and “sustainability sports science,” were analysed using Biblioshiny in R Studio to assess publication trends, key sources, country contributions, and collaboration networks. Results indicate a steady increase in scientific output, particularly since 2020, with an annual growth rate of 7.18%. The journal *Sustainability (Switzerland)* emerged as the leading publication outlet, while Spain, Australia, and the USA were the top contributing countries. International collaborations were prominent, highlighting the global and interdisciplinary nature of the field. The findings emphasize the growing importance of integrating sustainability principles into sports science to address environmental, social, and economic challenges. The study concludes by underscoring the vital role sports science plays in supporting sustainable development goals through research, practice, and policy, and offers recommendations for fostering further interdisciplinary collaboration and knowledge sharing. **Keywords:** Sustainability in Sports Science, Bibliometric Analysis.